

みちの「いとしい仏たち

The Beloved Gods and Buddhas
of Northeastern Japan



○会場 東京ステーションギャラリー ○開催時間 10時～18時「金曜日10時～20時」※入館は閉館30分前まで
○休館日 11月8日、2月5日、2月12日は開館、12月29日(金)～1月1日(月)、1月9日(火)
○主催 東京ステーションギャラリー「公益財団法人東日本鉄道文化財団」、NHK、NHKプロモーション
○協賛 IT&D保険グループ ○監修 須藤弘敏(弘前大学名誉教授)

2023
12
・
2 (土)
↓
2024
2
・
12 (月)

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

みちのく いとしい仏たち

The Beloved Gods and Buddhas
of Northeastern Japan

江戸時代、寺院の本堂の形状や荘厳が均一化され、上方や江戸で造られた立派な仏像が日本各地の寺院でご本尊として祀られるようになったいっぽうで、地方の村々では小さなお堂や祠などを抛り所として、素朴でユニークな仏像・神像が祀られました。仏師でも造仏僧でもない、大工や木地師の手によるこれら民間仏は、端正な顔立ちや姿のご本尊と違って、煌びやかな装飾はありません。その彫りの拙さやプロポーションのぎこちなさは単にユニークだけではなく、厳しい風土を生きるみちのくの人々の心情を映した祈りのかたちそのものといえます。青森・岩手・秋田の北東北のくらしのなかで、人々の悩みや祈りに耳をかたむけてきた個性派ぞろいの約130点の木像を紹介し、日本の信仰のかたちについて考えます。



北東北のくらしが生んだ
やさしい祈りのかたち



撮影(表面・裏面とも): 須藤弘敏

1.《山神像》江戸時代 兄川山神社/岩手県八幡平市 2.《達磨像》江戸時代 個人蔵/青森県南部町 3.《千手観音像(六観音立像のうち)》江戸時代 宝積寺/岩手県葛巻町 4.《不動明王二童子立像》江戸時代 洞園寺/青森県田子町 5.《子安観音坐像》江戸時代 龍像院/秋田県大仙市 6.《童子跪坐像》右衛門四良作 江戸時代(18世紀後半) 法蓮寺/青森県十和田市 7.《鬼形像》江戸時代 正福寺/岩手県葛巻町
※都合により開催内容が変更になる場合があります ※最新情報や関連イベント(11月に告知予定)は美術館ウェブサイトでご案内します

○入館料=一般1,400(1,200)円、高校・大学生1,200(1,000)円、中学生以下無料

※()内は前売料金[11月1日-12月1日オンラインチケットで販売] ※障がい者手帳等持参の方は100円引き(介添者1名は無料)

※チケット販売=オンラインチケットwww.e-tix.jp/ejrcf_gallery/(前売券・当日券)、当館1階入口(当日券) [オンラインチケット](#)→

○次回展=生誕120年 安井仲治 僕の大切な写真 2024年2月23日(金・祝)-4月14日(日)

住所=東京都千代田区丸の内1-9-1 交通=JR東京駅 丸の内北口 改札前

電話=03-3212-2485 WEB=<https://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

